

カナダ特集2016

Canada Special 2016

冬、ショルダーシーズンの旅行素材を発掘する



DESTINATION
CANADA

冬季需要の喚起に注力 2016年のカナダ観光局



カナダ観光局 社長兼CEO デービッド・ゴールドスティーン氏

昨年、カナダを訪れた日本人は、前年比6.4%増の27万5027人となった(宿泊者ベース)。今年に入っても、最新の数字(2016年5月現在)となる1〜3月の累計で前年同期比6.7%増の4万5989人と、引き続き大きな伸びを見せている。アウトバウンド全体が不調な中、プラス成長を見せたことは、今のカナダの旅行マーケットの力強さを物語る。新路線の開設で航空座席供給が増加、それに応じて需要が増えた形だが、旅行会社で新たなツアー造成に動いたことも、訪問者数の伸びに大きく貢献したと言える。今後さらなる成長を目指す上で、課題となるのが冬季の需要喚起だ。カナダ観光局では、来年のカナダ建国150周年を控え、通年で需要を盛り上げることで、より一層のマーケットの成長を目指していく方針。2016年のカナダ観光局の戦略について紹介したい。

日本は昨年6.4%増の27万5000人 「建国150年」の2017年に30万人突破狙う

他デスティネーションが軒並み前年比で日本人訪問者数を落とす中、カナダはプラス成長を記録した数少ないデスティネーションとなった。カナダ観光局社長兼CEOのデービッド・ゴールドスティーン氏は、先ごろ行われた同観光局主催のトラベルトレードショー「ランデブー・カナダ2016」のメディアインタビューの中で「航空アクセスや通貨安に加え、マーケティング・キャンペーンが奏功した」と説明。昨年、日本マーケット向けにスタートしたポータルサイト「カナダシアター」(www.canada.jp)を軸としたプロモーションが大きな効果をあげたことを強調した。



カナダ観光局 日本代表 半藤将代氏

同氏は「カナダシアターで、一般消費者だけでなく、旅行業界に向けても、カナダの新しいイメージを打ち出すことができた」と指摘。今年は昨年同様の伸びを目指す考えで、目標値として29万1500人を設定。観光局では、カナダ建国150周年を迎える2017年に日本人訪問者数を30万人とする目標を掲げており、「今年の目標が達成できれば、来年は31万人程度を目指したい」(観光局日本代表半藤将代氏)と、目標の上積みにも意欲を見せる。



ポータルサイト「カナダシアター」(www.canada.jp)

冬季需要喚起で旅行会社とタッグ 前シーズン比10%増狙う、教育旅行にも注力

目標実現へ向け、観光局で力を入れるのが冬季の需要喚起だ。半藤日本代表は「ピークシーズンの夏を中心にホテルが不足しており、今後需要を伸ばしていくには冬季の喚起が必要。旅行会社の間でもホテル仕入れを確保すべく、通年の需要喚起が重要との機運が高まっており、冬季の需要喚起をする上で、今が良いチャンスと捉えている」と説明。旅行会社と冬の新規ツアー造成での協力を進め、「冬の日本人訪問者数を前シーズン比で10%程度増やす」意向だ。

また、教育旅行にも注力。半藤氏は「カナダは多文化共存でグローバル人材育成にも力を入れている。独自の教育環



冬ならではの体験を訴求して需要を喚起

境は、教育旅行に向いている」とアピール。まずは「教育旅行先としてのカナダ」の認知度アップに努め、旅行会社とのタイアップや視察、セミナーも今後検討していく考えだ。

チームカナダの枠組み継続 業界向けセミナー、10月には「フォーカス・カナダ」

2010年よりスタートした「チームカナダ」。カナダ観光局を核に、各州の観光局や航空会社など、サプライヤー一体となってカナダ全体の旅行需要を盛り上げる。今年はカナダ観光局主催のトラベルトレードショー「ランデブー・カナダ2016」を前に、バンクーバーで現地法人向けのセミナーをチームカナダとして開催。カナダ観光局だけでなく、各州観光局もブレゼンに立った。カナダ観光局の半藤氏は「現地法人やツアーオペレーターとの関係は、今後も強化していく」と強調する。

旅行会社との関係は、旅行需要を喚起する上で重要だ。「FITを含め、日本マーケットにおいて旅行会社は重要な役割を担っている」(ゴールドスティーン氏)とあるように、チームカナダをベースに、カナダ観光局では各旅行会社とのパートナーシップを拡大、「今年からは新しいツアー造成やプロモーション等を協力の要件に求めている」(半藤氏)とのこと。大手の旅行会社に加え、FITに強い旅行会



昨年は大阪で開催した「フォーカス・カナダ・ジャパン」の様子。社との関係も強化する意向で、「こうした旅行会社はテーマ性の強いカナダの旅行商品に積極的に取り組んでおり、送客増につながっている。協力をさらに深め、新規ツアー造成につなげて冬の需要を伸ばしていきたい」考えだ。

業界向けのイベントとしては、4月24〜27日にケベック州モントリオールで開催したトレードショー「ランデブー・カナダ2016」に続き、10月13〜14日には日本市場向けのワークショップ「フォーカス・カナダ・ジャパン」を東京で開催する予定だ。

カナダの「体験型テーマパーク」開設に協力 建国150周年を前に盛り上げる

一方、一般消費者向けには、カナダの「体験型テーマパーク」を開設するプロジェクトに協力。同パークは、東京の豊洲に開業予定の新市場に隣接。新市場のオープンに合わせ、今年11月のグランドオープンを目指している。カナダ建国150



年を迎える来年7月1日までの期間限定で、直接カナダを感じてもらおう戦略だ。

加えて「カナダシアター」でのメディアとのタイアップを継続。また女優や編集者、アーティストなどを「インフルエンサー」として、カナダシアターで提案する10のテーマに合わせた情報発信を行ってもらうほか、プロガーイベントも開催していく予定。さらにデジタルマーケティングとして、カナダシアターに訪れた潜在層へのアプローチを強化。「カナダファン」を増やし、実際の渡航に結び付ける。

➡ 詳しくは7ページ

週刊ウイングトラベル「カナダ特集2016」目次

WING Travel Weekly "Canada Special 2016" Contents

カナダ観光局 Destination Canada	Page 2
「ランデブー・カナダ2016」レポート RVC2016 Report	Page 3-5
ブリティッシュ・コロンビア州 British Columbia	Page 6
カナダ建国150年 Canada 150	Page 7
カナダの冬 Winter Canada	Page 8-10
ユーコン準州 Yukon Territory	Page 11
アルバータ州 Alberta	Page 12
ノースウエスト準州 Northwest Territories	Page 13
オンタリオ州 Ontario	Page 14
プリンス・エドワード島州 Prince Edward Island	Page 15

ブリティッシュ・コロンビア州
British Columbia Page 6

ユーコン準州
Yukon Territory Page 11

ノースウエスト準州
Northwest Territories Page 13

プリンス・エドワード島州
Prince Edward Island Page 15

アルバータ州
Alberta Page 12

オンタリオ州
Ontario Page 14

「ランデブー・カナダ2016」レポート

RVC2016 Report

「ランデブー・カナダ2016」 ケベック州モントリオールで開催



「ランデブー・カナダ2016」会場風景

過去最大規模 日本から55名が参加

カナダ観光局(Destination Canada)主催のトラベルトレードショー「ランデブー・カナダ2016」が4月24～27日にケベック州モントリオールで開催された。40回目となる今年は、過去最高となる1680名が参加。日本からは、バイヤーとして昨年より多い旅行会社41社55名が集まり(含む現地法人。メディアを含めると45社59名)、国別ではカナダ、中国、アメリカ、英国に次ぐ規模となった。各バイヤーは期間中、現地カナダのサプライヤー582社/団体との事前アポイント制による個別商談を行った。

カナダに「追い風」、2年間で45億円の追加予算 訪問者数増、好調なマーケット背景に

メディア向け記者会見の中で、カナダ観光局社長兼CEOのデービッド・ゴールドスティーン氏は、「カナダにとって2015年は素晴らしい年となった」とアピール。昨年、カナダを訪れた外国人訪問者数(宿泊者)は、前年比7.5%増の1778万2949人を記録。好調な需要を受け、今後2年間で5000万カナダドル(約45億円)の観光プロモーション用追加予算が現在、カナダ連邦議会で審議中であることを明らかにした。

好調の要因として、ゴールドスティーン氏は、国際線航空座席供給の増加(過去5年間で12%増)やカナダドル安、ビザプロセスの改善(インド、中国、ブラ



カナダ観光局 社長兼CEO デービッド・ゴールドスティーン氏
シルなど)を挙げ、「国際マーケットにおいてカナダは、過去10年で初めてシェアを伸ばすことができた。カナダには今、追い風が吹いている」と強調した。

若年層向けの新キャンペーンがスタート 来年の建国150周年へ向け

最終日には、カナダ連邦政府より中小企業・観光大臣のバーディッシュ・チャガー氏とカナダ民族遺産大臣のメラニー・ジョリー氏が登場。チャガー大臣は、前述の追加予算について触れ、「ツーリズムは、カナダのブランドをアピールする上での重要な要素となる」と強調。



左からカナダ連邦政府 中小企業・観光大臣 バーディッシュ・チャガー氏、カナダ民族遺産大臣 メラニー・ジョリー氏

さらに来年のカナダ建国150周年へ向け、カナダ国内の若年層へ向けた旅行需要喚起を目的としたプロモーション「ミレニアル・トラベル・キャンペーン」を発表した。

カナダ観光局がカナダで若年層に人気のキュレーションサイト「Much.com」と組み、専用サイト「Far & Wide」(<http://farandwide.much.com/>)を開設、ソーシャルメディアも活用しながら、若年層である「ミレニアル世代」へ向けたカナダの新しい旅の魅力を紹介する。

[Far & Wide] (<http://farandwide.much.com/>)

2020年までに2000万人 「クール・カナダ」を訴求、旅行動機に

観光局では、2020年に外国人訪問者数を2000万人まで増やす目標だ。実現へ向け、「実際の旅行につながる」(ゴールドスティーンCEO)コンテンツ発信に注力する方針。記者会見の場で、同氏は「カナダはcoldではなく、coolなデステーションである点を打ち出したい」とアピールした。

ゴールドスティーン氏は「カナダは大きくてクリーン、美しく、自然豊かなイメージを持たれている。国のブランド力も世界で1、2を争う。しかしながら実際の旅行に結びつかないことが問題。これまでとは違うアプローチが必要だ」と指摘。そこで重視するのが、コンテンツ発信。同氏は「カナダは活力があり、文化やグルメ、先住民文化など、クールな側面がある」と説明。具体例として、今回のランデブー・カナダの開催地であるモントリオールを挙げ、「国際的にも有名なジャズフェスティバルや映画祭など、イベントや文化で特徴を打ち出している好例」と評価する。

コンテンツ発信にあたっては、各マーケットの特性に合わせた展開を進めていく。昨年日本でスタートしたポータルサイト「カナダシアター」(<http://canada.jp/>)を軸としたマーケティング展開、それに続くドイツでの動画を使ったオンラ



ゴールドスティーン氏。
カナダ側サプライヤー向けの発表の場にて

イン・キャンペーンは、コンテンツ発信の一例。今後は、アメリカ市場向けのキャンペーン、さらにカナダ国内の「ミレニアル・トラベル・キャンペーン」(前述)を進める。アメリカとカナダ国内のキャンペーンは、どちらもミレニアル世代(10～20代)を意識、画像投稿SNSのインスタグラムなど、ソーシャルメディアを活用した展開となる。

ゴールドスティーン氏は「観光局は、一般消費者と旅行業界サプライヤーをつなぐ橋渡しの役割を目指す」と強調。観光局が各種プロモーションで、カナダのコンテンツを積極的に発信することで旅行需要を喚起し、実際の渡航に結び付けたい考えだ。

開催地ならではの魅力あふれる内容 来年はアルバータ州カルガリーで開催

毎年、開催地ならではのユニークで魅力あふれる内容が特徴の「ランデブー・カナダ」。今年はモントリオールを本拠地とする世界的なパフォーマンス集団「シルク・ドゥ・ソレイユ」の最新ショー「Luzia」のプレミア公演を観賞。シルク・ドゥ・ソレイユの移動公演の新演目は、まず本拠地であるここモントリオールからスタートするのが慣例だ。

また、モントリオール観光局主催のバイヤー向け朝食会では、来年のモントリオール建都375周年を記念するイベントの内容が紹介された。カナダ建国150周年と合わせて実施するもので、イルミネーションや各種フェスティバルなど、年間通じて盛りだくさんのイベントを予定する。

なお、来年のランデブー・カナダは、アルバータ州カルガリーで5月9～12日に開催される予定だ。



アポイントの後には、シルク・ドゥ・ソレイユの最新ショー「Luzia」を観賞



来年はアルバータ州カルガリーで開催

次ページに続く ➡

各州観光局の動き

冬素材を開拓、ユーコンとの組み合わせも — ブリティッシュ・コロンビア州

カナダで最も多くの日本人が訪れるブリティッシュ・コロンビア(BC)州。昨年はエア・カナダ ルージュの関空-バンクーバー線就航で人気を集めたが、今後は「訪れる時期と場所をどう広げていくか」が課題という。BC州観光局 日本担当マネージャー モラス奈津子氏は、「夏場は混み合っており、マーケットを拡大していくには、冬やショルダーシーズンの需要喚起が不可欠。またデスティネーションの選択肢も増やしていく必要がある」と指摘する。

なかでも注目するのが、冬のクリスマスだ。バンクーバーや州都ビクトリアのイルミネーションイベントやクリスマスマーケットなど、「11~12月と期間は限定されるものの、昨シーズンは予想を超える集客を見せており、旅行会社でも取り上げる気運が高まっている」という。

隣接するユーコン準州との組み合わせも提案する。昨シーズンはFAMツアーを実施、「オーロラは、冬のカナダに行く大きな理由のひとつ。BC州との組み合わせで、北欧やアラスカとの差別化を図り、リピーターへの訴求も含め、カナダへ行く理由付けとしたい」考えだ。

日本からユーコン準州へ向かう場合に乗り継ぎ地点となるバンクーバー。クリスマスに加え、「地産地消やロハス」といった食のシーンを体験したり、昨年オープンしたアウトレットモールなど、ショッピングを楽しんだり、オーロラと



BC州観光局 日本担当マネージャー モラス奈津子氏

都市の魅力をセットで紹介。また「バンクーバーに滞在することで体力的な負担が減るほか、乗り継ぎ便をずらすことで、座席も取りやすくなるだけでなく、料金的にも割安になる」というメリットもある。

ショルダーシーズンでは、早春の花に注目。「温暖なバンクーバーでは、2月末~3月初旬に桜が開花し、オーロラとの組み合わせも提案できる」とのこと、新しい旅として訴求する。秋は「黄葉」をテーマに、ワイナリーが集まるオカナガン地方から東のネルソンへ向かい、カナディアン・ロッキーへ行くルートを紹介、「黄葉に加え、温泉も楽しめる。見どころを提案してツアー化していきたい」と意気込みを見せる。

冬の需要喚起、都市滞在も提案 — アルバータ州

今後の課題となるのが冬季の需要喚起。ノースウエスト準州とのコンビネーションで、イエローナイフのオーロラ観賞の後、カルガリーやバンフに立ち寄る旅行商品は増えており、需要は伸びつつあるものの、「夏の供給は逼迫しており、シーズンの拡大、訪れるデスティネーションの拡充が必要。カナダ観光局の方針もあり、特に冬の需要喚起に努めたい」(アルバータ州観光公社 市場開発担当ディレクター 小西美砂江氏) 考えだ。

具体的な提案のひとつとなるのが都市滞在だ。日本からの直行便が飛ぶカルガリーは、ホテル料金も下がっており、利用しやすい環境にある。「カルガリーを拠点に、カナディアン・ロッキーや恐竜の発掘地であるドラムヘラー、世界遺産のウォータートン・レイクス国立公園へ行くことができる」ほか、市場やファーマーズマーケットを巡るフードツアーや地ビール体験など、食を切り口とした提案も行いたい意向。またエドモントンもフードツアーが充実しているほか、「関連プログラムが充実しているので、教育旅行にも最適」とあるように、いろいろな提案を通じ、都市滞在の訴求を行っていく。

夏の魅力を訴求、販促ツール整備 — ユーコン準州

ユーコン準州政府観光局では、日本語のパンフレットとツアー日程表を新たに作成、またログを紹介する冊子(英語)も用意、販促ツールとして活用する。特にログは、「旅行会社からの関心が高い。どのログも小規模なので、FIT向きとなるが、犬ぞりを楽しんだり、美味しい料理を楽しめたり、また湖畔の立地など、バラエティー豊か」(観光局 日本マーケット担当 高橋由香氏) と特徴がある。

今後の展開としては、夏の需要喚起に力を入れる。高橋氏は「ホワイトホースのオーロラが浸透してきたが、これだけでユーコンの魅力は語れない。カナダ国内や欧米から訪れるのは夏から秋にかけてのシーズンが中心。日本マーケットでも十分通用するので、もう少し需要を喚起



左からユーコン準州政府観光局 日本マーケット担当 高橋由香氏、アジア太平洋地区マーケティングマネージャー ジェシカ・ラフェン氏

したい。オーロラは大きな柱ではあるものの、本来のユーコンの魅力を日本に届ける工夫をしたい」と意欲を見せる。具体的には、夏だけの絶景やハイキング、野生動物が楽しめるゴールデンサークル、ツンドラの紅葉や夏の白夜を体験できるドーソンシティを通るルート、さらに北極圏へのルートなど、いずれもツアー日程表に載っている行程を訴求、夏の需要につなげる。

教育旅行、冬季の素材開発に注力 — オンタリオ州

オンタリオ州を訪れた日本人訪問者数は、昨年12万876人を記録、前年比で3.2%増と好調に推移した。その要因のひとつとなったのが、エア・カナダ ルージュの関空-バンクーバー線の就航だ。「関西の各旅行会社で、バンクーバーを拠点にカナディアン・ロッキーやナイアガラ滝を巡る周遊コースが増え、ファーストタイマーを中心に人気を集めた」(カナダ・オンタリオ州観光局 アカウント・マネージャー 田中恵美氏) という。また今年はデルタ航空が国際線乗り継ぎ用の関空-成田線を開設、同路線を利用してアメリカ経由でオンタリオ州へ入ることができるよう、中部-デトロイト線を利用して名古屋から入ることもできるため、これらルートを使った商品も増えている。

昨年より観光局では、現地コーディネーター会社と組んだ地方都市でのセミナーを開催するなど、教育旅行に注力、その結果も表れている。なかでも特徴的なのが「フランス語の研修目的でオタワを訪れるケースが増えている」点。フランス語圏のケベック州に接するオタワは、フランス語と英語の教育プログラムが充実。来年はカナダ建国150周年で、カナダの首都として注目が集まるオタワ。「建国150周年に合わせ、ミュージアムの改装が進むなど、旅行会社からの注目も集まっ

アルバータ州など、他州との組み合わせも — ノースウエスト準州

オーロラの目的地として人気を集めるノースウエスト準州だが、新たな取り組みとしてスタートしているのがアルバータ州との組み合わせだ。「オーロラとカナディアン・ロッキー、それぞれの州の得意な部分を組み合わせたツアーで、どちらにもメリットがある」(ノースウエスト準州観光局日本オフィス アカウント・マネージャー 田中映子氏) と力を入れる。

同準州の玄関口となるイエローナイフへは、日本からの直行便が飛ぶアルバータ州カルガリー経由が便利。カルガリーとイエローナイフは、1日2便のフライトがあり、日本からスムーズな乗り継ぎが可能だが、便をずらすことで、座席が取りやすくなるなどのメリットがある。

素材面では、昨年12月イエローナイフにオープンした地ビール醸造所

現地法人へのアプローチ強化、直行便にも期待 — ケベック州

日本マーケット向け戦略について、ケベック州観光局 戦略立案/マーケティング担当マーケット・アドバイザー ロン・パケット氏は、「現地法人へ向けたアプローチを強化している」と説明する。

具体的にはFAMの実施や女性向けのパッケージを提案。「午前中にフランス語のレッスンを受け、午後は料理教室やワインテイスティング、ヨガ体験など、女性層向けに他のカナダの州とは違った魅力を紹介したい」考え。フランス語の語学研修プログラムにも力を入れる。

食を切り口にオンタリオ州と共同セミナー — プリンセスエドワード島(PEI) 州

一昨年のNHKテレビ小説「花子とアン」で盛り上がりを見せたPEI州。昨年は反動で日本人訪問者は減少したものの、「昨年の数字は決して悪くなく、今年は昨年の数字をキープすることが重要」(PEI州政府観光局 日本代表 高橋由香氏) というスタンスだ。

具体的には、カナダ観光局が進めるカナダシアターやチームカナダの枠組みを軸に、旅行業界、一般消費者へのアプローチを図る方針。素材としては、引き続き食に注目、「カナダシアターで投票による行きたいツアー(ゴールデン・メープル賞「ツアー情報」部門)の1位にPEIのフードツアーが選ばれており、食を切り口とした旅の提案に大きな潜在性を感じている」とあるように、メディアへの露

ており、盛り上がり期待したい」ところだ。

今後の展開としては、引き続き教育旅行に力を入れるほか、冬季の旅行素材開発も進めていく方針。「夏や秋は移動手段や宿泊施設が逼迫しており、新たな需要獲得のためには冬季の開拓が必要。トロントのクリスマスマーケットや冬ならではのアクティビティ、イベントを紹介したい」考えだ。

また新たな展開として、プリンスエドワード島(PEI) 州政府観光局と共同で、食を切り口とした提案も行う。「オンタリオ州のワインやメープルシロップ、PEI州のシーフードなどを組み合わせ、『東部カナダ グルメ街道』として女性層への訴求を図りたい」意向。メディア露出や旅行会社へ向けたツアー造成の働きかけを目指す。



左からカナダ・オンタリオ州観光局 アカウント・マネージャー 田中恵美氏、業界リレーション&国際マーケティング担当副社長 トリシア・グラント氏、トレード・コンサルタント アジア ハービー浜崎氏

「NWT Brewing Company」、同じくイエローナイフに今年8月オープン予定のノヴァホテル、また来秋にはオールインクルーシブタイプのラグジュアリーな宿泊施設「ソルティス ロッジ」がオープン予定。「新しいタイプのリゾートがオープンすることで、富裕層やハネムナーへ向けに、ひと味違った体験やリピーターへの提案も可能となる」と期待を見せる。



左からノースウエスト準州観光局 日本オフィス アカウント・マネージャー 田中映子氏、ディラクター・オブ・マーケティング ロン・オストロム氏

また観光局、ケベック州として、日本とモントリオールを結ぶ新たな直行便実現へ向けた取り組みも進めており、日本で開催予定のカナダ関連イベントへの協力も検討していく。



ケベック州観光局 戦略立案/マーケティング担当マーケット・アドバイザー ロン・パケット氏

出や旅行会社へのツアー造成の働きかけを行っていく意向。現地サイドでも日本人向けのフードツアー開発のサポートを行う。

また、カナダ・オンタリオ州観光局と共同で食をテーマに旅行会社向けセミナーを実施する予定。「ゆくゆくは共同のFAMツアーやメディア露出などのマーケティングも図りたい」考えだ。



左よりPEI州政府観光局 トレード&セールスマネージャー クレイグ・スリス氏、日本代表 高橋由香氏

カナダのアーバンライフを体験

モントリオール

大自然のイメージが強いカナダだが、北米で人口が4番目に多い大都市トロント、また西海岸のバンクーバーなど、洗練された都会の魅力もある。今年のランデブーカナダの開催地となったモントリオールもそのひとつ。トロントに次ぐカナダ第2の都市で、フランス文化が色濃く残り、他のカナダの都市とはひと味違ったユニークな表情を見せてくれる。



旧市街の中心アルム広場に面したノートルダム聖堂

旧市街の街並みを歩く 無料アプリでタイムトリップ

カナダでも屈指の歴史を誇るモントリオール。フランス人による入植が始まった1642年は、日本ではちょうど江戸時代初期にあたる。旧市街は、18～19世紀を中心に古い建物が今でも残り、おしゃれなレストランやカフェ、ショップも数多いので、街歩きには最適だ。

モントリオール出身の歌手セリヌ・ディオンが挙式したノートルダム聖堂、城壁など入植時の遺構を見ることができる考古学歴史博物館「ボワンタカリエル」では、日本語を含む8ヶ国語でモントリオールの歴史を体験できるビデオプログラムがあるので必見だ。

旧市街には、無料Wi-Fiが整備されており、そこでぜひ使ってみたいのが無料アプリ「Montréal en Histoires」。アプリを立ち上げて、ノートルダム聖堂など、旧市街にある60のポイントにかざしてみると、画面に昔の様子が現れる仕組みで、過去の旧市街の情景を追体験できる。



無料アプリ「Montréal en Histoires」に建物をかざすと昔の姿が出現



旧市街の街並み

英国の雰囲気を感じさせるダウントウン ニュースポットも登場

フランス語圏のケベック州最大の都市として、またフランス語圏でパリに次ぐ規模を誇るモントリオール。だが実際、街を歩くと、フランスの雰囲気だけではないことが分かる。オフィスビルやホテル、デパートやアパートメントなどが集まるダウントウンの建物は、19～20世紀初頭に建てられたイングランド／スコットランド風の重厚なビクトリア様式が主流。英国領だった名残で、フランスとはまた違った独特の街の風景だ。

そんなモントリオールを高層ビルの上から一望できるアトラクションが誕生する。今年6月オープン予定の「オ・ソメ プラス・ビルマリー」は、46階建てのビルの最上階に設けた展望デッキのほか、11のテーマでモントリオールの歴史や文



「オ・ソメ プラス・ビルマリー」から見るダウントウン
化がわかる展示スペース、レストランを併設。レストランには屋外スペースもあり、貸し切りで300名収容可能だ。

ちなみにモントリオールでは条例により、町の名前の由来ともなった標高233メートルのモン・ロワイヤル山よりも高い建物を建てることが禁止されている。

モントリオール五輪から40年 オリンピック・パーク

モントリオールを上から眺めるスポットはほかにもある。郊外のオリンピック・パークにあるモントリオール・タワーだ。オリンピックのメインスタジアムに併設し、高さ165メートルで傾斜塔としては世界一の高さを誇る。まわりに高い建物がないので、遠くアメリカまで見渡すことができる。

モントリオール・オリンピック開催から今年で40年。パーク内では関連の展示



オリンピックのメインスタジアムとモントリオール・タワーを予定しており、パーク中央には、このオリンピックで金メダルを獲得した国の旗がひらめいていて、日本の国旗も見ることができる。

印象的な郊外、リアルな生活の場 プラトー・モン・ロワイヤル、マイル・エンド

今回、モントリオールを訪れて一番印象的だったのが「ネイバーフッド」だ。いわゆる郊外のエリアで、「プラトー・モン・ロワイヤル」や「マイル・エンド」などの地区がある。

どのエリアも地下鉄やバスを使って簡単にアクセスが可能。ユダヤ人やイタリア人、ギリシャ人やポルトガル人など、移民も多く住んでおり、モントリオールの人たちのリアルな生活の場を垣間見ることができる。

20世紀初頭に開発が始まったため、その当時のアルデコ調の美しいアパートメントが建ち並ぶ。おしゃれなエリアや庶民的なエリア、いくつか移動しながら散策するのが楽しい。建物の壁面にはクールなストリート・アートが施され、地元デザイナーのブティックやギャラリーなども点在する。

またネイバーフッドは、グルメ・スポットとしても地元で人気。行列が絶えないスモーク・ミートは、スモークしたとは思えないほど肉汁たっぷりでジューシー。ベーグルも有名で、石窯で焼いたベーグルはシンプルながらも外はカリカリで中はモチモチ。ハチミツを入れたお湯で生地を茹でるのでほんのかな甘さを感じる。モントリオールへ訪れたら絶対に焼きたてを味わいたい。お店は24時間営業というから驚きだ。

近年注目を集めるのが地ビール。モントリオールには、40ヶ所の醸造所があり、その規模は北米でポートランド(米オレゴン州)に次ぐ規模。醸造所の多くがパブを併設し、そこで飲むスタイルが多く、商品としてあまり出回らない。つまり、ここでしか味わえないわけだ。

市場にも足を運びたい。ジャンタロン市場は、近郊の野菜や果物が並び、簡単な食事にも楽しめる。地元の人で賑わっており、ケベック州のものだけを集めた食品店は、おみやげ探しにピッタリ。メープルシロップやアイスワイン、フォワグラ入りなどのパテも美味しい。

こうしたネイバーフッドのスポットを巡るウォーキングツアーも数多く用意されている。なかには地ビールのパブ巡りやストリート・アートなど、テーマ性の高いものも。自転車で回るツアーもある。

もちろん地下鉄やバスを使って自分の足で回ることもできる。また、町の至る所に自転車のレンタルスポットがあるので、自転車を借りて巡ることも可能。旧市街だけでなく、こうしたネイバーフッドでモントリオールの真のアーバンライフを体験したい。



印象的なネイバーフッドの街並み



行列ができるスモークミート



焼き立てアツアツ、モチモチのベーグル



町の至る所にある自転車のレンタルスポット。1日5カナダドルで気軽にレンタルできる



クリーミーな生ビール。いろいろな種類がある



ストリート・アートを巡るウォーキングツアーも

来年は建都375周年 カナダ建国150周年と連動 年間通じて各種イベント

モントリオール観光局は、来年のカナダ建国150周年に合わせ、今年の12月より建都375周年を記念した各種イベントを年間通じて実施する。セントローレンス川に架かるシンボリックなジャック・カルティエ橋のイルミネーション、グルメや音楽、スポーツ、アートなど、多彩なラインナップで盛り上げる。

モントリオール観光局 社長兼CEO イブ・ラルミエール氏は「年間500ものイベントを予定している。北米で最も歴史のある都市のひとつであるモントリオールが多彩な文化の発信地である点を強くアピールしたい」と意気込みを見せる。



モントリオール観光局 社長兼CEO イブ・ラルミエール氏

特に冬は、イルミネーション・フェスティバルやイルミアート(2月23日～3月12日)、真冬の屋外で開かれるエレクトロ・ミュージックの音楽フェス「イグルフェスト」(1～2月)が開かれる予定だ。

(詳しくは) <http://www.375mtl.com/en/>

ブリティッシュ・コロンビア州

秋から冬、春にかけての楽しみ方

オフシーズンと捉えがちな冬のカナダだが、ブリティッシュ・コロンビア州には、冬だからこそ楽しめるアクティビティーがたくさんある。またバンクーバー周辺は、暖流の影響で冬でも比較的温暖で過ごしやすく、春の訪れも早い。秋から冬、そして春にかけてのブリティッシュ・コロンビア州の楽しみ方を紹介したい。



マーケットやイルミネーションは必見！ バンクーバー、ビクトリアのクリスマス

毎年11月末頃からクリスマスのイルミネーションに包まれるバンクーバーと州都ビクトリア。この時期ならではのマーケットやイルミネーションは必見で、1年で一番華やかな夜を楽しむことができる。

バンクーバー

スタンレー・パークのブライト・ナイト
町に隣接して手つかずの大自然が広がるスタンレー・パーク。幻想的な光の装飾がクリスマス気分を盛り上げてくれる。クリスマス用の可愛い電車は子供たちに人気で、まるでメルヘンの世界に迷い込んだかのよう。

<http://vancouver.ca/parks-recreation-culture/bright-nights-train.aspx>



バン・デューセン植物園の フェスティバル・オブ・ライト

春のキバナフジで人気の植物園もクリスマス期間中は壮大なイルミネーションに包まれる。小路を歩きながらファンタジーな世界に浸ったり、サンタクロースを探す子供向けのイベントに挑戦したり、楽しみ方はいろいろ。特に音楽に合わせて光が躍る「Dancing Lights」は必見だ。

<http://vandusengarden.org/explore/events/>



クリスマス・マーケット

バンクーバーのダウンタウンにもクリスマス・マーケットが出現！買い物をしたり、本場ドイツと地元の料理をビールや温かい飲み物と共に楽しんだり、クリスマスの華やかな雰囲気に触れてみたい。今年は11月26日～12月24日まで。

<http://vancouverchristmasmarket.com/>

キャピラノ吊り橋のキャニオン・ライト

ノース・バンクーバーの観光名所もクリスマスへ向けて幻想的な姿に生まれ変わる。渓谷の暗闇の中に浮かぶ光の架け橋は、実に印象的。本物のモミの木を使ったクリスマスツリーは、高さ46.4mで世界最大規模を誇る。

<https://www.capbridge.com/explore/canyon-lights/>



ビクトリア

ブッチャート・ガーデンの マジック・オブ・クリスマス

1年中お花が楽しめるビクトリアの人気スポットもクリスマスのイルミネーション一色に。昼間とは違ったロマンティックな雰囲気、一度訪れたことのある人にもおすすめ。州議事堂など、ダウンタウンのライトアップも美しい。

<http://www.butchartgardens.com/activities/5-seasons>

冬でもハイキング 温暖なバンクーバー島の温帯雨林を歩く

暖流の影響で温暖な気候のバンクーバー島は、冬でも充分ハイキングが楽しめる。太平洋沿岸のユクルーレットは、昔ながらの漁村でのんびりとした小さな町。海岸沿いの9kmにわたるワイルド・パシフィック・トレイルは、美しい海岸線と世界でも貴重な温帯雨林の中を歩く絶好のハイキングルートとなっている。



世界的に貴重な温帯雨林の中を歩く

海沿いの美しいビーチを横目にトフィーノへ。海岸沿いにはスタイリッシュなリゾートが点在しており、そこから海上に発生する風を見る「ストー



冬でも温暖なバンクーバー島 © Sander Jain

ムウォッチング」が人気。毎年11～2月の冬の時期だけの現象で、海岸に押し寄せる荒波は実にダイナミックだ。

さらに先住民ガイドと一緒に伝統的なカヤックに乗り、彼らの文化が息づくミアーズ島へ移動。樹齢1000～1500年の大木が残るビッグ・ツリー・トレイルも体験したい。

ワイルド・パシフィック・トレイル
<http://www.wildpacifictrail.com/>
ビッグ・ツリー・トレイル
<http://www.tourismtofino.com/trails>

オーロラ鑑賞+バンクーバー滞在 グルメにショッピング、スパ体験、お花見も！

冬に人気のオーロラ鑑賞。乗り継ぎ地点となるバンクーバーは、冬でも温暖な気候で、気温は東京とさほど変わらない。オーロラ鑑賞にバンクーバー滞在を組み合わせるだけで、多彩な旅のコンビネーションができあがる。

グルメ

いま注目のバンクーバーのグルメシーン。地元のワインや地ビールを堪能したり、人気のドーナツ・ショップやカフェを巡ったり、グランビル・アイランド・マーケットツアーなど、食のツアーも充実。お得にレストランで美食を堪能できる「Dine Out Vancouver」も要チェックだ。

Dine Out Vancouver (2017年1月20日～2月5日)
<http://www.dineoutvancouver.com/>

ショッピング

ガス・タウンやイエール・タウンなど、ショッピング・エリアが充実しているバンクーバー。また、昨年オープンしたマッカーサー・アウトレットは、バンクーバー国際空港に隣接しているので、帰国前に立ち寄ることもできる。

ホテルステイ&スパ

オーロラ鑑賞で疲れた身体を癒すには極上のホテルステイが最適。冬ならラグジュアリーなホテルもリーズナブルに宿泊できる。スパ施設で極上のトリートメントを受ければ、心も、身体も癒やされることまちがいない。

早春のお花見

バンクーバーの春の訪れは早い。なんと2月終わりから3月初めにかけては桜が街を彩りはじめ、4月に向けて

さまざまな花が咲き誇る。「オーロラ+桜」のような実にユニークなコンビネーションもできる。



グランビルアイランド・マーケットツアー



空港に隣接するマッカーサー・アウトレット



桜が開花し、いち早く春が訪れるバンクーバー

北米最大級のスキーリゾート ウィスラーでスキー&スノーボード三昧

冬のアクティビティーとしてやはり外せないのがスキー。200本以上のコースを有する北米最大級のスキーリゾートで、上級者から初心者まで、コースのバリエーションも充実。絶景を眺めながら、爽快感あふれる滑走が可能だ。クロスカンтриーや犬ぞり、スノーモービル、スノーシューなど、さまざまなウィンター・アクティビティーも楽し



める。本格的なリゾートホテルでの滞在も魅力だ。

<http://www.whistlerblackcomb.com/>

「黄葉」と温泉が楽しめる注目ルート ここだけのワインも味わえる

カナダ東部メープル街道の紅葉は有名だが、ブリティッシュ・コロンビア州でも美しい「黄葉」が楽しめる。

オカナガン地方は、ワインの産地として知られるエリア。秋の時期はぶどうの葉が黄色に変わり、あたり一面が黄金色に輝く。オカナガンのワインは、日本ではあまり飲むことができないので、ワイナリーを巡りながら、おみやげにワインを買ったり、地元のワインや美味しい料理を味わったりしたい。



ワイナリー巡りも楽しいオカナガン地方



ネルソンの黄葉

東へ進むと、古くしっとりとした街並みが印象的なネルソンへ。この辺り一帯も黄葉で美しく染まる。さらに進むと、フェアモントホットスプリングスへ。その名の通り、ここは巨大な温泉プールのあるリゾート地だ。

ここからカナディアン・ロッキーへはもうすぐ。バンクーバーからカナディアン・ロッキーへ、黄葉、ワインと美食、そして温泉と、秋の時期だから体験できるルートだ。

2017年は カナダ建国150周年!



2017年に建国150周年を迎えるカナダ。現地では、150周年を祝うさまざまなイベントやプロモーションが予定されている。カナダ観光局では、カナダ旅行に関する総合ポータルサイト「カナダシアター」を昨年開設。サイト内では、各種メディアや旅行会社とのタイアップで、カナダの新たな旅の魅力を提案する。この「カナダシアター」を軸に、日本でも150周年に合わせたプロモーション展開を計画しており、今後ますます目が離せない。

新しいカナダの魅力を発見!



総合ポータルサイト
カナダシアター
www.canada.jp

カナダ旅行に関するさまざまなコンテンツを集めた総合ポータルサイトで、カナダ旅行に関する動画や特集記事、ブログや旅行会社のツアー情報などを網羅。多彩なラインナップで、まだまだ知られていないカナダの新しい旅の魅力を提案する。

「歩く」「自然と共に生きる」「食べる」「冒険する」など、10のテーマでカナダの魅力を発信するほか、カナダ建国150周年

ドラマ「MOSAIC -CANADA- (モザイク -カナダ-)」の動画、各種メディアとのタイアップによるスペシャルコンテンツといった、盛りだくさんのコンテンツで、どれもカナダへ行きたくなるような内容ばかりだ。

カナダへ行きたくなったら、各旅行会社のツアー情報のページへ。各社ホームページのツアー紹介のページへリンクしており、そのまま旅行の予約や問い合わせができる。またカナダ観光局のツイッター(@CanadaExplore)などの最新情報も充実している。

サイトは、タブレットやスマートフォンにも対応。いつでもどこでもカナダの旅行情報にアクセスできるので、ぜひブックマークしていつでも見られるよう登録しておきたい。

さまざまなプログラムで 150周年を盛り上げる

また観光局では、実際のカナダへの渡航へ結びつけるべく、「カナダシアター」に限らず、さまざまなプログラムを通じてカナダ建国150周年を盛り上げていく方針だ。カナダの旅行関連の出版サポートやブロガーを集めたイベントはその一例。「インフルエンサー」によるSNSでの



カナダシアター www.canada.jp

情報発信やデジタルマーケティングによる販促など、カナダに関する多様なコンテンツを発信していく考えだ。

東京の新豊洲市場近くに今年11月グランドオープン予定の「メープル リーフ ガーデン」への協力もそのひとつ。カナ

ダ建国150周年へ向け、カナダを体験できるこれまでにないユニークなプロジェクトで、いわば「カナダの体験型テーマパーク」だ。観光局では、同プロジェクトに協力、ガーデン内でのイベントやセミナー等も検討する。

Hot Topics



バンフ国立公園 (アルバータ州) © Banff Lake Louise Tourism

2017年、 カナダの国立公園が入場無料に!

カナダ政府は、2017年の建国150周年を記念し、「パークス・カナダ (カナダ国立公園管理局)」が管理する国立公園や国定史跡への入場を無料とすることを発表した。期間は2017年の1年間。

カナダの国立公園は全部で39ヶ所。全土に広がり、アルバータ州カナディアン・ロッキーのバンフ国立公園、ジャスパー国立公園、プリンス・エドワード島州のプリンス・エドワード島国立公園などは、数多くの日本人が訪れる国立公園の代表格。また同州エドモントン近郊で手つかずの大自然が広がるエルク・アイランド国立公園、セントローレンス川の流域に無数の島が浮かぶ景勝地として知られるオンタリオ州のサウザンド・アイランズ国立公園、ワイルドな大自然を体験できるユーコン準州のクランニ国立公園などにも注目したい。

また、国定史跡は全土に168ヶ所もあり、カナダの歴史を知る上で重要な史跡を網羅する。世界遺産にも指定されているオンタリオ州のリドー運河、モントリオールやケベックシティの旧市街にもいくつか史跡があるほか、小説「赤毛のアン」の世界を楽しめるプリンス・エドワード島州のグリーン・ゲイブルズ・ハウスも重要な国定史跡のひとつだ。

カナダ建国150周年を機に、より訪れやすくなったカナダの国立公園や国定史跡。上記のほかにもさまざまなスポットがあるので、この機会を利用して、いくつか巡ってみるのもおもしろい。

カナダ建国150周年記念ドラマ

MOSAIC -CANADA-

(モザイク -カナダ-)

イマジカBSとカナダ観光局との共同プロジェクト。2017年7月1日のカナダ建国150周年へ向け、カナダシアターで紹介する10のテーマについてのドキュメンタリーとドラマで構成する。

ストーリーは、カナダ観光局スタッフの秋月菜々が2017年の建国150周年へ向け、現地カナダでさまざまな出会いを経験しながら自分自身でカナダの魅力の原点を探していくという内容。映像を通じてカナダへの理解が深まり、旅行への意欲が掻き立てられるはずだ。

ドラマはイマジカBSのほか、カナダシアターでも観ることができる。

<http://canada.jp/mosaic/>



(キャスト) 安田早紀、前田亜季、江口のり子、袴田吉彦、ボブ・ワリー、萬田久子

カナダのヘルスコンシャスなライフスタイルを 発信する期間限定テーマパーク

メープル リーフ ガーデン

カナダ建国150周年へ向け、日本でも大きなプロジェクトが始動する。今年11月オープン予定の豊洲市場(東京都江東区)の隣接地に、同月のグランドオープンを目指す「メープルリーフ ガーデン」だ。カナダの今を知ることができる「体験型テーマパーク」として、2017年9月末までの期間限定で開設する計画。

メープル リーフ ガーデンのテーマは、「カナダのヘルスコンシャスなライフスタイル」。知っているようで、意外と知らない、自然と共に生きるカナダの等身大のライフスタイルを日本で紹介しようという試みだ。日本でも近年注目を集めるオーガニック、ヨガ、アウトドア、ヘルス&ビューティーなど、新しい切り口で、カナダの今を体験できるブースやイベントを予定している。

具体的には、カナダ各地で開催されているファーマーズ・マーケットやフードトラック(屋台)を会場に再現。新鮮なオーガニック食材を使ったレストランやカフェ、カナダのオーロラが体験できるプラネタリウムを設けるほか、イベントを通して、カナダのライフスタイルの一部となっているランニングやヨガも体験できる。また本場シュガーシャック(メープルシロップの工房)を再現、世界中で人気のカナダブランドのフラッグシップショップなど、幅広いラインナップでカナダの伝統的な文化から新しい文化まで、トータルで発信していく。

同プロジェクトには、カナダ観光局も協力、旅行情報の提供やセミナーの開催場所として活用していく予定。クリスマス時期には、ケベック州のクリスマスが体験できるイベントを計画。また主催者サイドでは、旅行会社との協力も進めていく考えだ。



カナダの冬

ユーコン準州

オーロラ&極北の冬アクティビティー



ユーコンでのオーロラ観賞は、バラエティー豊か。ロッジから、こじんまりとした観賞ポイントからと、さまざまな方法で楽しめる。自分に合った観賞方法を選択して最高のオーロラ観賞を楽しみたい。また、ユーコンクエストに代表されるように、犬ぞりはユーコンの伝統スポーツ。犬と一体に雪原を駆け抜ける経験をぜひユーコンで！

ユーコン準州観光局
www.yukonjapan.jp

ブリティッシュ・コロンビア州

バンクーバーのクリスマス

<http://vancouver.ca/parks-recreation-culture/bright-nights-train.aspx>



11月末から12月いっぱい、バンクーバーの各所でクリスマスを楽しむことができる。お勧めはスタンレーパーク。広大な敷地に突如現れる光とクリスマスソングの饗宴は、カナダのクリスマスを体験するにはぴったり。また、バン・デューセン植物園のイルミネーションイベントやダウンタウンで開催されるクリスマス・マーケットも欠かせない。

ブリティッシュ・コロンビア州観光局
HelloBC.jp

アルバータ州

サンシャイン・メドウのスノーシュー

<http://www.skibanff.com/things-to-do/snowshoe-at-sunshine-village/>



© Banff Lake Louise Tourism

夏は可憐な花々を見ながらハイキングが楽しめることで人気のサンシャイン・メドウズでは、冬は白銀のカナディアン・ロッキーに囲まれて歩くスノーシューがお勧め。大パノラマと静寂の中、ザクザクとパウダースノーに足跡を刻む独特の感触は、まるで未開の地を探検しているような気分が味わえる冬ならではの特別な体験だ。ホットチョコレートでのブレイクタイムや、贅沢なチーズフォンデュがセットになったツアーもあり、誰でも気軽に楽しめる。

アルバータ州観光公社
www.travelalberta.jp

各州／地域の観光 カナダのお 冬のアクテ



オフシーズンのイメージが強いカナダ
 カナダの各州／地域の観光局イ
 冬限定、冬ならではのアクテ

観光局が紹介する おすすめの アクティビティ



カナダ

ニューファンドランド&
ラブラドル州

ケベック州

プリンス・エドワード島州

オンタリオ州

シャーロットタウン

ケベックシティ

モントリオール

オタワ

トロント

ノバ・スコシア州

ニュー・ブランズウィック州

冬の冬だが、決してそんなことはない。
チオシの冬だからこそ楽しめる、
アクティビティを紹介したい。

ノースウエスト準州

ロング・ジョン・ジャンボリー

<http://longjohnjamboree.ca/>



© NWT

毎年3月下旬に行われる氷の彫刻のコンペティション。昨年は日本人が優勝を果たした。氷の彫刻作品だけでなく、氷を使った遊具も数多く作られ、子供たちをはじめ、多くの人がこのイベントを楽しめる。会場は湖の上。冬になると、イエローナイフの周辺の川や湖は厚さ2m以上もの氷が張るために、アイスロードと呼ばれる道路になったり、このようなイベント会場になったりと、ロング・ジョン・ジャンボリーはまさに、極北地域ならではの寒い季節でも楽しめるイベントのひとつだ。

ノースウエスト準州観光局
spectacularnwt.jp

オンタリオ州

どこでも大満足! オンタリオ州各地の冬のアクティビティ



オンタリオ州の冬はシティ派もアウトドア派も大満足。トロントのクリスマス・マーケットをはじめ、ツリーの点灯式や街中を彩るイルミネーション、街中&郊外で楽しむウィンターアクティビティは、アイススケートやスノーモービル、スノーシュー、アイスフィッシングなど。さまざまな種類が楽しめる。

カナダ・オンタリオ州観光局
www.ontaristyle.com

プリンス・エドワード島州

冬こそホームステイ

<http://www.crtours.co.jp/canada/sac.html>



© Study Abroad Canada

異文化体験は冬がお勧め。観光シーズンで賑やかな島は、観光にはもってこいだいが、じっくりと文化体験をしたいのなら、島の人たちも落ちつく冬がお勧め。クリスマスなどの伝統行事やニューイヤーズなど、大きなイベントもホームステイを通して身近に体験することができる。大人のホームステイもお勧め。

プリンス・エドワード島州政府観光局
www.tourismpei.com/jp

旅行会社おすすめの「カナダの冬」

エイチ・アイ・エス

プロカメラマン同行のオーロラツアー 冬だけの魅力を訴求し、リピーターを喚起

昨冬シーズンにカナダの冬商品を拡充した同社。なかでも好調だったのがオーロラで、「プロカメラマンが同行するツアーを新たに設定し、人気を集めた」（北米・中米・カリブ旅行事業グループ飯田憲史グループリーダー）とのこと。20～30代の若年層の利用が増えたのも大きな傾向で、「FIT強化でオンライン広告などのプロモーションを増やしたことが要因」とみる。

新たな取り組みにもチャレンジした。「スキー商品を増やしたほか、冬のトロントや冬のカナディアン・ロッキーなど、ベストシーズンではないが、カナダ観光局やエア・カナダの意向も踏まえ、冬商品に対してはモチベーションを上げて取り組んだ」という。

例えば、カナダ東部のコースでは、町の美しいイルミネーションを堪能でき、氷でできた「アイスホテル」の見学など、ベストシーズンの夏や秋では味わえない、冬だけのユニークな体験を訴求。特に「ベストシーズンにカナダへ旅行したことがある人など、リピーター需要を喚起していきたい」と意気込む。

冬は航空座席やホテルなど、割安で仕入れることができ、さらに「オフシーズンなので、現地サイドに柔軟に取り組んでくれる」とあるように、冬の旅行商品では、夏や秋などのベストシーズンにはない特典やサービスを盛り込むことができ

るというメリットもある。

飯田氏がカナダの冬の魅力として注目するのが「大自然」だ。「都会での魅力ももちろんあるが、シロクマといった冬の野生動物を観察するなど、冬のカナダの自然を体験できる素材を開拓していきたい」という。同社の現地法人では積極的に現地視察を行っており、秘境専門デスク ネイチャーワールドでのツアー展開も今後検討していく。

「カナダの旅行需要をもっともっと伸ばしていくには、ローシーズンとなる冬の需要を上げていくことが重要。来冬シーズンもオーロラに限らず、カナダ東部の冬商品など、積極的に商品拡充を図っていきたい」考えだ。



好評だった「プロカメラマン同行」のオーロラ商品は、現在販売中の「夏秋オーロラ」商品でも継続。次の冬商品でも設定予定だ。

かもめ

オーロラと並ぶ「冬の魅力」発掘に注力 クリスマス、プリンス・エドワード島も

自社サイトや旅行比較サイト（エイビーロード、トラベルコちゃん）でツアー販売する同社。カナダを本格的に手掛けたのは5年ほど前からで、以来FITを意識した専門性の高いツアーを揃える。

冬の主力はオーロラ。ノースウエスト準州イエローナイフをベースに、オーロラ鑑賞だけでなく、専門店だからこそ可能な手配力を活かし、雪景色のカナディアン・ロッキーや凍結したナイアガラの滝などを加えた「厳しい冬だからこそ美しいカナダの大自然を体験できる周遊ツアーが好調。予約も早めに入る」（メディア販売部 部長 古寺宏史氏）という。

今後の展開については、「冬のカナダを代表するのはやはりオーロラだが、オーロラ同様に冬のカナダでしか体験できない、行く価値のある旅行素材に積極的にチャレンジしていきたい」考え。

その中で、新たに注目するのがクリスマスだ。「北欧では、オーロラだけでなく、ムーミンやサンタ、雑貨など、他の楽しみ方があり、女性層にマッチしている。カナダでも同様に訴求できるものがあるはず」と考える。カナダでは、ショッピングやイルミネーション、イベントなど、都市ごとにそれぞれクリスマス時期の楽しみ方があり、「単なるオーロラ＋αではなく、オーロラ同様にクリスマスもカナダの冬の楽しみ方として提案できるよう盛り上げていきたい」と力を入れる。また小説「赤毛のアン」の舞台として人

気の高いプリンス・エドワード島での冬の滞在もツアー化。同島のツアーは「非日常の憧れの世界を体験できる」点に注力しており、冬はシャーロットタウンのクリスマスイルミネーション、雪景色の赤毛のアンの家など、冬ならではの光景が楽しめるという。「赤毛のアンは、島の四季の情景を描いており、冬でもアンの世界を体験できる。冬だけの体験として、リピーターに訴求したい」と意気込む。

オーロラ自体も、イエローナイフだけでなく、今後はユーコン準州のツアーも紹介していく予定。「ロッジでの滞在など、イエローナイフとは違った切り口で提案したい。2～3月に春を迎え、桜も開花するバンクーバーを組み合わせたオーロラと花を楽しめるユニークなコースも検討していく」考えだ。

カナディアンネットワーク

VIA鉄道スキーナ・ルートに注目 定番、過去の商品を改めて掘り起こし

FIT向けの専門性の高い旅行商品を提供する同社が冬の旅行素材として注目するのがVIA鉄道のスキーナ・ルートだ。ブリティッシュ・コロンビア(BC)州のプリンスルパートからカナディアン・ロッキーの拠点のひとつであるアルバータ州ジャスパーを結ぶ列車で、夏期はツアークラスとエコノミークラス、冬期はエコノミークラスのサービスとなり、展望車が付くので、車窓からカナダならではの雄大な大自然を楽しむことができる。

特に冬は「雪景色の中を走るの、夏とは違った風景を楽しめる」（同社 内田智恵氏）のが特徴で、「冬の列車旅」として提案していく。人気の大陸横断鉄道「カナディアン号」と比べ、席が取りやすく、割安なのもメリット。また「カナダの素朴な魅力に出会える」点も、ひと味違ったカナダの体験を求める層に訴求できると期待をかける。

カナダの冬の楽しみ方として、内田氏は「冬のカナダの楽しみ方として、まず挙がるのがオーロラやスキー。だが、それはあくまでも楽しみ方のひとつであって、他にもいろいろな楽しみ方がある」と強調する。なかでも最近人気を集めているのがスノーシューを付けた雪山のハイキング。「カナディアン・ロッキーは、山ごとに表情があり、冬の情景はまた格別。しっかりと防寒対策を施すので、それほど寒くはない」とのことだ。

また、冬だけの体験となるのが、カ



スキーナ・ルート展望車から見る美しい雪景色

ナダの代名詞のひとつでもあるメープルシロップの収穫。昔ながらのシュガーシャック（砂糖小屋）で収穫の様子を見学したり、メープルシロップを使った美味しい料理を堪能したり、まさに冬の収穫時期だけの楽しみとなる。

冬のフェスティバルを体験するのも冬のカナダの楽しみ方のひとつだ。「オタワのウィンター・ルード、ケベック・シティのウィンター・カーニバル」など、ユニークなイベントが多く、12月には各地でサンタクロースのパレードが行われる。こうしたフェスティバルを絡めた旅行も紹介していく。

今後の展開として、内田氏は「カナダ観光局の協力も受けながら、定番商品や過去に人気のあった商品を見直して、改めて新たな魅力を掘り起こしていきたいと考えている、カナダシアターを通じて発信できれば」と意欲を見せる。

クラブツーリズム

「お客様に響く」冬素材を吟味 「白銀のカナディアンロッキー」集客に手応え

カナダの冬商品として、昨冬シーズンに同社が新たに発売したコースが「白銀のカナディアンロッキー7日間」。人気の古城風ホテル「フェアモント・バンフスプリングス」に宿泊、途中大陸横断鉄道「カナディアン号」に乗車、ジャスパーの「星空鑑賞保護区」での星空鑑賞、バンフの温泉、ゴンドラからスノードラゴン（樹氷）を眺めるなど、冬だからこそできる体験をふんだんに盛り込んだ。

造成で心がけたのは、「冬にしかないものを逆説的に掘り起こし、その中からお客様に響く素材を当てはめた」（アメリカ・オセアニア旅行センター アシスタントマネージャー 田中佳宏氏）こと。ヒントとなったのが冬の東北や北海道の旅行商品。「温泉、樹氷や流水、冬に美しいカニやマグロ、白鳥など、冬しかないものを逆手に取って、売りにしている」点を参考にし、日本人の好みに合ったカナダの冬素材を吟味し、ツアー化した。

同コースは、4本の設定日すべて催行、計80名を集客した。「爆発的な売れ行きというわけではないが、オーロラやスキー、また価格訴求型が中心となるカナダの冬商品の中で、添乗員付きの周遊コースが動いたということが自信に大きくつながった」という。

今冬シーズンは「もっと前広に、素材を掘り下げて、パワーアップした形で提案したい」考え。また、カナディアン・

ロッキーに限らず、カナダ東部にも注目。「アイス・フェスティバルやメープルシロップの収穫、鉄道や料理、雪原など、冬の素材を単に押し付けるのではなく、お客様の心に触れるものをマッチさせて行くことが大切」と、新たな商品造成へ向け意気込みを見せる。

一方、主力のオーロラは、人気のイエローナイフに加え、ホワイトホースの添乗員付きツアーを造成。「2名催行でガイド無し商品の多いホワイトホースでも添乗員付きとし、200名集客できた。細分化した需要を上手く取り込むことができた」と評価する。

同社のこだわりは、メインのターゲットであるシニア層を意識した「添乗員付きの安心感」。ほかにもイエローナイフにカナディアン・ロッキーやナイアガラを加えた周遊コースも設定、集客につながった。



昨冬シーズンに販売したカナディアン・ロッキーの冬商品「白銀のカナディアンロッキー7日間」

ユーコンで冬のカナダの真髓を体験

冬はオーロラ鑑賞で人気のユーコン準州。刻々と変化する雄大な山々とオーロラが織りなすコントラストは、ユーコンだからこそ見ることでできる絶景だ。オーロラ鑑賞以外にも、冬のユーコンにはたくさんのアクティビティーが揃う。人生を変える大自然との出会いーユーコンで心揺さぶる体験を。

白銀の山とオーロラとのコントラスト ユーコンならではの絶景を堪能

オーロラが頻繁に発生する「オーロラベルト」の真下に位置するユーコン準州。シーズンは、8月末から4月の半ばまで。雪で覆われた銀嶺の上に広がるオーロラ、という絶景が見られるのもこの地ならではの。

この神秘的な現象をさまざまなスタイルで楽しめるのもユーコンならではの醍醐味。小規模なツアーに参加したり、自然の中にひっそりと佇むロッジに滞在して鑑賞したり、よりプライベートな雰囲気でもオーロラを鑑賞できる。



雄大な山並みの上に現れるユーコンのオーロラ

より旅が楽しくなるロッジ プライベートな空間でオーロラ鑑賞も



設備の充実したハイエンドなロッジも多い



美味しい料理に舌鼓。カリブーやアークティックチャー(北極イワナ)など、極北の味覚も味わえる



ロッジに滞在して楽しむオーロラ鑑賞

質の高いロッジが点在するユーコン。どのロッジも小規模なので、個人旅行向きだが、犬ぞりを楽しんだり、美味しい料理を楽しんだり、美しい湖畔に立地するなど、バラエティーにあふれている。

ロッジでのオーロラ鑑賞もちろん可能。ロッジに滞在すれば、鑑賞場所へ移動することなく、オーロラが現れたらロッジの外へ出たり、または部屋の中から眺めたり、時間を気にすることなく、自分のペースでオーロラを独り占めできる利点がある。

充実のアクティビティーで 冬のユーコンを体感

オーロラ鑑賞にかぎらず、冬のユーコンには、冬だからこそ楽しめるアクティビティーが充実している。特に犬ぞりは、「ユーコンクエスト」などの国際大会も開催される本場。よくトレーニングされたドッグチームと共に、雪景色の大自然の中を疾走する快感は他では味わえないもの。ソリに乗るだけでなく、ドッグチームを操縦するマッシャー(犬ぞり師)体験も可能だ。

ほかにも雪原から森の中まで、専用トレイルを巡るスノーモビルツアーやクロスカントリースキー、ハイキング感覚で楽しめるスノーシュー、ホワイトホース近郊にあるマウント・シーマでのスキーやスノーボードなどにも是非挑戦したい。

さらにドリームキャッチャー作りといった、地元先住民の文化体験やホワイトホース郊外にあるタキニ温泉へのツアーなど、ユニークなプログラムも数多く、夜も昼も充実した旅程を組み立てることができる。



犬たちとの触れ合いも楽しいひととき



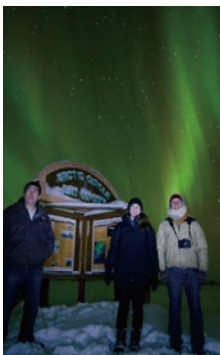
気軽に楽しめるスノーシュー



地元でも人気のタキニ温泉

究極のウィンタードライブ 北極圏へアイスロードを走り抜ける

ユーコンでは、究極のウィンタードライブも可能だ。カナダで唯一北極圏へと到達しているデンプスター・ハイウェイ。冬、この道路の一部となっている川が凍結、アイスロードとして横断できるようになる。道路は全長740kmで、ドーソン・シティ郊外から北極海近くの町イヌヴィック(ノースウエスト準州)まで伸びる。むき出しの岩山が屹立するトゥームストーン準州立公園などユニークな景観のなかを走り抜け、やがて北極圏の広大なツンドラの原野へ、という迫力あるドライブルートだ。車やガソリンなど重装備が必要となるので、ホワイトホースやドーソン・シティから出るドライバーガイド付きのツアーを利用するのがおすすめだ。



北極圏でオーロラ鑑賞も



ツンドラの大地に延びるハイウェイ



冬を楽しむフェスティバル、 イベントも充実

2月上旬 国際的な犬ぞりレース、日本人女性も活躍 ユーコンクエスト



ホワイトホースとアラスカのフェアバンクスの間、1600kmを犬ぞりのみで10日以上かけて走破する。完走できるチームはわずかで、「世界で最も過酷なレース」とも呼ばれる。2012年に日本人女性として初めて本田有香氏が走破したことでも話題を集めた。スタート地点は、ホワイトホースとフェアバンクスが毎年交互に変わり、2017年はホワイトホースからのスタートとなる予定。

2月下旬 ホワイトホース恒例の冬祭り ユーコン・サワードー・ランデブー



雪上レースやクイーンコンテスト、力自慢大会、パレード、コンサートなど、子供から大人までが楽しめるイベントが連日盛りだくさん。日本チームも参加する雪像コンテストも開催。

2月上旬 体力の限界に挑戦! 極寒のウルトラレース ユーコン・アークティック・ウルトラ

「世界で最も極寒でタフなウルトラレース」として知られ、ホワイトホースからドーソン・シティの間をラン、クロスカントリー、マウンテンバイクの3種目で競い合う。距離は42km、100/300/430マイルの4コース。自らの体力の限界に挑戦すべく、日本人の参加も増えている注目のウルトラレースだ。

ユーコンへの アクセス

バンクーバー乗継が便利。バンクーバーからホワイトホースへは、エア・カナダとウエストジェット(季節運航)、ユーコンの航空会社エア・ノースが毎日飛んでいる*。バンクーバーで日本路線との同日接続も可能だ。

*運航スケジュールは要確認

アルバータ州

Alberta

旅って、ここからが面白い (remember to breathe) ~自分に戻る瞬間~



冬だからこそ体験できる! アルバータ州 冬のおすすめアクティビティ

スキー

世界遺産のカナディアン・ロッキーで楽しむ



© Travel Alberta

世界自然遺産に指定されているカナディアン・ロッキーでのスキーはまた格別。「スキー・ビッグ3」と呼ばれるレイク・ルイズ、サンシャイン・ビレッジ、マウント・ノーケイのスキー場では、1枚のチケットですべてのスキー場を滑ることができる。気持ち良い青空の下で、上質なパウダースノーを感じながら上級者コースから家族みんなで楽しめるコースまで、誰でも忘れられない体験となるはずだ。

スキー・ビッグ3 <http://www.skibig3.com/>

スノーシュー

足で踏みしめて感じる パウダースノー



© Banff Lake Louise Tourism

パウダースノーを自分の足で踏みしめて、冬景色の大自然の中を歩く。サンシャイン・ビレッジのツアーでは、サンシャイン・メドウズの美しい冬景色を散策しながら先住民や開拓者の歴史について学び、チーズフォンデュに舌鼓。また、「ロッキーの宝石」ルイズ湖周辺を散策するコースも人気だ。エドモントン近郊のエルク・アイランド国立公園では、バイソンやエルク、鹿やムースといった、野生動物に出会えることも。

<http://www.skibanff.com/>

<http://www.banfflakelouise.com/Snowshoeing/>

<http://www.haskincanoe.ca/snowshoe-rentals.html>

スケート

山と氷河をバックに、 湖上で滑る開放感



© Travel Alberta

夏はターコイズブルーに輝くレイク・ルイズだが、凍結した冬だからこそ楽しめるのがスケート。カナディアン・ロッキーの険しい山々と、奥に控えるビクトリア氷河に囲まれた湖上という開放感たっぷりのロケーション。つついその絶景に目を取られてしまうので、まわりに注意しながら滑りたい。湖上を滑れば、いくつかのメディアで「世界で最高のスケートリンク」に選ばれた理由を実感できるはずだ。

<http://www.fairmont.com/lake-louise/promotions/skatingonlakelouise/>

アイス・ウォーク

凍結した川の上を歩けば 静寂の世界が



© Travel Alberta/Sean Thonson

靴底にすべり止めを付け、ガイドが安全確認を行いながらサポートしてくれるので安心。渓谷を分け入り、凍結した川の上を歩くと、そこは静寂に包まれた世界が広がる。さらに進むと、断崖絶壁に囲まれた凍結した滝が見える。普段は豊富な水量で轟音とともに流れ落ちる滝が冬には様相を一変、あたかも時が止まったかのような姿を見せてくれる。所要時間は1〜2時間程度と、気軽に参加できる。

ジャスパー国立公園 マリーン渓谷 (Sundock Transportation and Tours)

<http://www.sundogtours.com>

バンフ国立公園 ジョンストン渓谷 (Discover Banff Tours)

<http://www.banfftours.com>



犬ぞり、馬そり

冬景色の自然の中へ一直線



© Travel Alberta/Anthony Redpath

© Banff Lake Louise Tourism

カナナキスのバウンダリー・ランチで体験できる犬ぞり。冒険気分で大自然の中を突き進んだ後は、キャンプファイヤーでココアを片手に、先住民のフライブレッド(揚げパン)を食べながら温まる。優雅に楽しみたいならレイク・ルイズの馬そりがおすすめ。目の前に広がるのは雪化粧したカナディアン・ロッキーの絶景。ブランケット、飲み物とお菓子のサービスが付く。

カナナキス (Boundary Ranch) <http://boundaryranch.com>

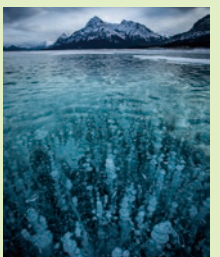
レイク・ルイズ (Discover Banff Tours)

<http://www.brewsteradventures.com/winter-sleigh-rides>

こんな体験も

幻想的なアイスバブル

バンフ国立公園近くにあるアブラハム湖で冬だけに見られるユニークな現象。凍結した湖に閉じ込められた無数の泡(バブル)が白く見える様子はまさに幻想的。湖底の枯れた植物から発生するメタンガスが上昇してできるもので、何層にも重なったり、形を変えたり、まさに寒い時期だからこそ見る事ができる自然からの贈り物だ。



© Paul Zizka

冬はもちろん、通年で楽しめるアクティビティ

星空鑑賞

ベストな環境で満天の星空を



© Tyler Cook

夜間の照明を調整することで、星空鑑賞にベストな環境を提供、闇夜に煌めく無数の星に圧倒される。オーロラが現れればラッキー。解説を聞けば、宇宙への興味はさらに高まるはずだ。「ダークスカイ保護区」の認定を受けたジャスパー国立公園やバンフ国立公園で楽しめるほか、エドモントン近郊のエルク・アイランド国立公園では、焚き火を囲みながら国立公園のバイソン保護プログラムについて学ぶこともできる。

ジャスパー <http://www.sundogtours.com/>

バンフ

<http://discoverdm.com/>

エルク・アイランド国立公園

<http://www.pc.gc.ca/>

温泉&スパ

真のリラックス体験



© Travel Alberta

ワールドクラスのリゾート地であるバンフは、温泉保養地としても人気。水着に着替えて、大きなプールのような湯船に浸かれ、心身ともにリラックスできるはず。また由緒あるリゾートホテル、フェアモント・バンフ・スプリングスやフェアモント・ジャスパー・パークロッジでの極上のスパ体験も楽しみたい。大自然の恵みを全身で感じながら、アクティビティで疲れた身体をリフレッシュできる。

バンフ・アッパー・ホット・スプリングス

<http://www.hot springs.ca/>

フェアモント・バンフ・スプリングス

<http://www.fairmont.jp/banff-springs/>

フェアモント・ジャスパー・パークロッジ

<http://www.fairmont.jp/jasper/>

グルメ

話題のフードツアーに参加、 人気の地ビールも



© Jeff Bartlett

旬のグルメシーンを効率よく体験できるのがフードツアー。特産品をはじめ多くの食材が集まるファーマーズマーケットや話題のレストランで、美味しい食べ物をつまんで、シェフの解説を聞きながら、食に対する知識を深めることができる。カルガリーでは現在6つのテーマ別フードツアーがあり、今後はキャンモアやエドモントンでも登場する予定。また、いま注目なのが「Farm to Glass(農場からグラスまで)」のコンセプトで、地元の原料を使って造られるこだわりのビールや蒸留酒。醸造所/蒸留所でのテイasting付きのツアーもあるのでぜひ参加したい。

カルガリー・フードツアー <http://calgaryfoodtours.com/>

カルガリー・クラフト・ビール・ツアー/スピリット・アルバータ・テイasting・ツアー <http://calgarybrewerytours.beer/>

クラフト蒸留所ツアー (Eau Claire Distillery) <http://eauclairedistillery.ca/>

エドモントンのプライベート・ダイニング (Kitchen by Brad) <http://kitchenbybrad.ca/>

キャンモア・プログレッシブ・ディナー・ツアー dining@tourismcanmore.com

ノースウエスト準州

Northwest Territories

スペクタクルなオーロラの神秘に沸く 雄大な大自然を遊び尽くすアクティビティも



世界的なオーロラ・デスティネーションのノースウエスト(NW)準州。夜空を彩る神秘的なオーロラは、誰もがあこがれる観光素材であり、NW準州はその遭遇率の高さで群を抜いている。また、広大な大地には手つかずの大自然が横たわり、日本では味わえない壮大なスケール感が魅力だ。国立公園などをフィールドに、大自然を体感できる数々のアクティビティにも挑戦したい。



日本からは同日着でアクセス アルバータ州との共同プロモーションも

日本からオーロラ観光の拠点となるイエローナイフまでは、エアカナダの直行便でバンクーバー経由、もしくはカルガリー経由でアクセスするのが一般的だ。バンクーバーからは国内線でエドモントンかカルガリーを経由。エドモントンからは約1時間半、カルガリーからは約2時間のフライトで、いずれも同日にイエローナイフに到着することができる。

NW準州観光局ではこの冬、隣州のアルバータ州観光公社と組んでプロモーションを行う予定だ。冬のカナディアン・ロッキーとイエローナイフのオーロラを組み合わせた商品の造成を呼び掛けており、各旅行会社の商品に応じた特典を用意する。

アクセスの点から見ても、日本から直行便でカルガリーに入り、アルバータ州からNW準州へと移動する行程は、旅行者にとっても利便性が高い。カナダの大自然に迫る2つの州を組み合わせることで、旅行者の印象に深く刻まれる魅力的な商品の誕生が期待できそう。

オーロラ鑑賞は快適なビレッジで 夏と冬で見え方が異なるオーロラの魅力

オーロラとは、太陽から放出される電気を帯びた粒子、プラズマが大気圏突入の際に起こす発光現象のこと。オーロラが頻繁にみられるのは緯度60～80度のオーロラベルトで、緯度69度のイエローナイフはこの真下にすっぽりと入っている。加えて、晴天率が高いこと、遮るものがない平地が広がっていることといった条件も揃い、頭上に広がるオーロラを手取るように鑑賞することができるのだ。

オーロラのシーズンは、大きく冬と夏の2つに分かれている。オーロラといえば冬というイメージが強く、ベストシーズンは1～3月だが、夏のオーロラは晴天率の高い8月下旬～9月末が見ごろ。緑色に輝く光の帯が湖面に反射する神秘的な風景は、実は夏ならではの光景だ。気候的にも鑑賞しやすく、グレートスレーブ湖でのオーロラクルーズといったアクティビティとの組み合わせもさまざまな客層にアピールできるだろう。

イエローナイフでオーロラを觀賞するなら、快適な施設が整っている「オーロラビレッジ」がおすすめ。敷地には先住民が居住していたテント「ティーピー」が建ち並び、2～5名を収容できるプライベート型から最大50名が入れる大型のティーピーまでさまざま。

オーロラが出現するまでは、ダイニングホールやギフトショップがそろったティーピーで過ごし、極寒実験教室や星空ウォッチングなどのアトラクションに参加したりと思いいきに過ごすことができる。

3日滞在すれば、95%の確率でオーロラが鑑賞できるといわれるイエローナイフ。旅行日数や予算に余裕のあるシニア層はもとより、昨今はファミリー層や女性グループ、フォトツアーなどにも人気が高く、幅広い客層に支持されている。



オーロラビレッジ ©Aurora Village

ゲートウェイ、イエローナイフの進化 市内の見どころやグルメも

NW準州のゲートウェイであり、オーロラ鑑賞の拠点でもあるイエローナイフは、極北地方最大の都市にして同準州の経済の中心地。街の名前は、先住民デネ族が鉱山の採掘に使用していた銅製のナイフの色が由来だ。鉱業の町として発展し、現在ではオーロラ観光の拠点としてカナダを代表するデスティネーションとなっている。



イエローナイフ市内(オールドタウン)



オールドタウンにあるイエローナイフで一番古いレストラン

人口2万人のイエローナイフには、観光ポイントも少なくない。開拓時代の面影が残るオールドタウンでは、市内で最も高い展望台、パイロット・モニュメントが必見の場所。市街地とグレートスレーブ湖を一望のもとに眺めることができる。また、同準州の歴史や自然、文化への理解を深めることができる「ノーザン・ヘリテージ・センター」やガラスのドーム型が特徴の立法議事堂などもおすすめだ。

市内には次々に新しいレストランも開業している。2015年12月にオープンした「NWTブリュワリー・カン

また、レストランやラウンジ、フィットネスセンター、サウナ、ビジネスセンターといった設備も充実している。

世界第3位のカナダ・ダイヤモンドを紹介

20世紀初頭、地下資源が豊富なイエローナイフはゴールドラッシュに沸いた。1990年初頭にはダイヤモンドの鉱床が発見され、現在は金に代わる州の重要な産業となっている。

現在カナダは、時価ベースで世界第3位のダイヤモンド産出地。カナダ・ダイヤモンドは主にNW準州より産出されており、ニューヨークに本店を構える「デビアス・ダイヤ」でもNW産のダイヤモンドを使用している。

イエローナイフでは、2014年5月にオープンした「ダイヤモンドセンター」へ足を運びたい。無料でダイヤモンド鉱業を紹介する施設で、採掘の様子や研磨の工程などが見学できる。NW準州産のダイヤモンドは品質が高いことでも知られており、ショップの製品にはすべて品質・産地証明書が発行される。



パニー」は、地ビールが楽しめる店。世界で最もピュアな水とカナダ産の麦芽やホップを使ったオリジナルのクラフトビールを製造しており、これに極北の素材を生かした料理を提供している。

また、市内初の韓国料理店として「コリア・ハウス」もオープン。51ストリート沿いの店にはブルコギやビビンバといったポピュラーなメニューがそろい、テイクアウトも可能だ。そのほか、バッファローや北極イワナなどの極北料理なら、「エクスプローラー・ホテル」内の「トレダース・グリル」やオールドタウンに位置する「ブロックス・ビストロ」などがおすすめ。

NWT Brewing Company www.nwtbrewingco.com
Korea House <http://www.koreahouseyk.com>



世界遺産の2大国立公園を舞台に 大自然を体感できるアクティビティを！

オーロラ鑑賞以外にも、NW準州では雄大な自然が旅行者を受け入れている。その代表格が2つの国立公園だ。

ユーコン準州との州境に広がるナハニ国立公園は、1978年にガラパゴス諸島やイエローストーンなどと一緒に登録されたユネスコ世界自然遺産の第1号。雄大に蛇行するサウス・ナハニ川、落差90メートルの絶壁を落ちて行くヴァージニア滝、切り立つテーブルランド、ラム・プラトーなどの見どころがあり、いずれの景観も息をのむほど圧巻だ。



ナハニ国立公園、バージニア滝

ゲートウェイとなるのはイエローナイフから飛行機で約2時間のフォート・シンプソンで、そこから水上飛行機でアクセスするのが一般的。大自然の見どころを巡るほかにも、モーターボートでカリブーやマウンテンシープなどの野生動物をウォッチングしたり、湖畔のロッジに宿泊してハイキングを楽しんだり、日本では体験できないアクティビティが充実している。

グレートスレーブ湖の南、アルバータ州にまたがる広大なウッド・バッファロー国立公園も、1983年に登録されたユネスコの世界自然遺産。その名の通り野生のバッファローを保護するための公園で、ほかにも絶滅の危機に瀕しているアメリカシロツル、ムース、オオカミ、ブラックベア、ライチョウ、ビーバーなど、野生動物の宝庫として知られている。広大な塩の原野も世界的に珍しい場所といえるだろう。



ウッド・バッファロー国立公園 ©Parks Canada

ゲートウェイは公園の北側に位置するフォート・スミス。イエローナイフから定期便が運航されており、アクセスしやすいのも特徴だ。

イエローナイフの近郊や2つの国立公園では、アクティビティも豊富にそろそろ。冬の定番プログラムといえば、一番人気は犬ぞりだろう。先住民の生活に不可欠だった犬ぞりは現在、人気のアクティビティとなっているほか、夜の犬ぞり体験では運がよければオーロラを仰ぎ見ながら疾走することができる。



犬ぞり ©Aurora Village

また、完全氷結するグレートスレーブ湖でのアイスフィッシングもおすすめ。初心者でもタラやマス、イワナ、体長1メートル以上のカワカマスなどが釣れることもあるとか。ほかにもスノーモービルやカイトスキー、カリブーウォッチングも人気が高い。

夏のアクティビティでポピュラーなプログラムといえば、ハイキングだ。気軽に参加できるのは、イエローナイフから車で約1時間のキャメロン滝。森や岩場のトレイルを歩きながら、風景や動植物に触れる癒しの時間を楽しむことができる。



ハイキング

TOPICS

イエローナイフに新ホテルがオープン！

観光の拠点となる街、イエローナイフにはさまざまな宿泊施設が点在している。日本人観光客の利用が多いエクスプローラー・ホテルをはじめ、市内中心部に位置するイエローナイフ・イン、ディスカバリー・イン、デイズ・インなどは、市内観光やショッピングに最適だ。

2016年9月には、イエローナイフのダウンタウンに3つ星の新ホテル「シャトー・ノヴァ・イエローナイフ(Chateau Nova Yellowknife)」がオープンする。スイートルームを含む全141室は長期滞在にも適したハーフキッチン付きで、冬期のホテル不足解消にも一役買いそう。



オンタリオ州

Ontario

ライトアップされた都市で冬ならではの魅力を楽しむ 光輝くウィンターオンタリオ

カナダ最大の都市トロントや首都オタワ、そして一大観光スポットであるナイアガラの滝を有するオンタリオ州。冬には、各都市で趣向を凝らしたライトアップイベントやクリスマス・マーケットが行われ、ひとときの華やかさとなる。羽田からの直行便が運航するトロントを入口に、きらびやかな都市を楽しみ、ロマンチックなカナディアンウィンターを体験してみたい。

Toronto

イルミネーションの中でシティライフを満喫



市庁舎前のカパルケード・オブ・ライツ

トロントでは、11月中旬ころから街中がクリスマスモードに突入する。まず古いウィスキー工場跡地を再開発したディスティラリー・ディストリクトできらびやかなイルミネーションが点灯。人気のクリスマス・マーケットも開催される(11月18日～12月18日)。続いて市庁舎前のネイザン・フィリップ・スクエアに設置された高さ15mもの「トロント・オフィシャル・クリスマスツリー」もライトアップ。11月26日の点灯式「カパルケード・オブ・ライツ」では、ライブミュージックや花火などで盛り上がる。これ以降、市内は光で溢れ、特にダウンタウンの中心ダングラス・スクエアや、高級ショッピングストリートのヨークビル、若者が集まるクイーンウェストなどは見応え十分。多くのイルミネーションは2月中旬ころまで続けられる。

インターナショナルグルメ

100ヵ国以上の文化が集まっているトロントでは、世界各地の料理が本場の味わいで楽しめるのが魅力だ。チャイナタウン、リトルイタリー、グリークタウンなど、市内に点在する民族タウンを訪れて、世界の味めぐりを体験してみるのもいい。2017年1月17日～2月10日には、市内の200以上の人気レストランがお得なメニューを提供するフードイベント「ウィンターリシャス」も開催される。



グリークタウンのレストラン

エンターテインメント&プロスポーツ

冬のトロントではミュージカル鑑賞が人気だ。ニューヨーク、ロンドンに次いで劇場が多いこの街では、最新作からオフブロードウェイ的な実験作品まで、様々な演目が見られると注目されている。またトロントにはNHL(ホッケー)のメープルリーフズ、NBA(バスケットボール)のラプターズといったプロスポーツの地元チームがあり、冬にはこれらの迫力ある試合を観戦することもできる。

ショッピング

クリスマス前後には、ショッピングも

楽しみのひとつだ。まずクリスマス前には、市内各地でクリスマス・マーケットやクラフトショーなどが開催される。またクリスマス明けのボクシングデーからは一斉にウィンターセールがスタート。ブランド狙いなら、ヨークビル界隈へ、また効率よく買い物するなら、市内中心にある大型モールのイートン・センターが便利。さらに最近リノベーションされてより充実した郊外のヨークデール・ショッピングセンターも、ダウンタウンから地下鉄を利用し、ショートトリップ感覚で楽しめる。



イートン・センターもクリスマス仕様

公共交通を利用して街歩き

トロントのダウンタウンには、地下鉄6駅を連結し、総距離28kmにも及ぶ地下街「PATH」が張り巡らされている。多くのホテルやイートン・センターなど主要施設に直結しているので、地下鉄とこのPATHとをうまく利用すればほとんど外に出ずにショッピングも可能だ。地下鉄をはじめストリートカーやバスなどの公共交通(TTC)を旅行者が利用する場合、1日乗り放題となるデイパスが便利だが、最近このパスをスマホで利用できるEチケット「TTC Connect」が誕生した。これは専用アプリをスマホにダウンロードし、必要なチケットをオンライン購入しておくもの。また長期滞在するならトロント広域に使えるPRESTOカードの利用も便利だ。ちなみにPRESTOカードはピアソン国際空港とダウンタウンのユニオンステーションを結ぶ列車UP Expressにも利用可能で、この場合、通常往復料金\$24のところ\$18に割引となる。



地下鉄やUP Expressなどが集中するユニオン駅



国会議事堂を中心にライトアップされるオタワのダウンタウン

Niagara

氷の滝、輝く夜景…。冬にしか見られない絶景

大人気の観光地ナイアガラの滝は冬、雪と氷に演出されたこの季節ならではの景観を見せてくれる。まず気温が下がってくると、滝のしぶきによって周辺の樹木が氷付き、太陽の光を受けてクリスタルのように輝く様子が堪能できる。また真冬には上流のエリー湖の水が流れてきて滝壺に重なり、幻想的な「アイスブリッジ」が見られることも。この時期、滝壺まで行く「ホーンブローワー・ナイアガラ・クルーズ」は運休しているが、滝裏のトンネルに出る「ジャーニー・ビハインド・ザ・フォールズ」をはじめほとんどの人気アトラクションは行われており、滝観光は十分に楽しめる。



氷の彫刻のような冬のナイアガラの滝

イベント&ショッピング

11月19日～1月31日の期間には、滝周辺がイルミネーションで輝く恒例イベント「ウィンター・フェスティバル・オブ・ライツ」が開催。期間中には、新年のカウントダウンやレーザーライトショーなども予定されており、通常の滝のライトアップや毎週金曜日の花火ショーに加

え、一帯はひととき煌びやかになる。また1月13日～29日には、名産のアイスワインとグルメを堪能できる「ナイアガラ・アイスワイン・フェスティバル」も開催。郊外にできた巨大アウトレットモール「アウトレット・コレクション・アット・ナイアガラ」でのショッピングも見逃せない。



名産品アイスワイン

ナイアガラにダイナミックなジップラインが登場！

この夏、ナイアガラの滝の近くに、新たな体験型アトラクションが登場する。アメリカ滝の目の前で670mの長さのケーブルを滑り落ちるジップラインと、渦を巻くナイアガラ・ワールプールの上空を12～14本の細いつり橋で渡っていくエアリアル・アドベンチャーの2種類だ(正式名称は未定)。オープンには2016年のカナダデー(7月1日)を予定。

Ottawa

建国150周年を迎える首都で優雅な冬休みを

12月初旬から1月初旬にかけ、首都オタワでは、国会議事堂のあるパースメント・ヒルを中心にダウンタウン全体がイルミネーションで輝く「クリスマス・ライト・アクロス・カナダ」が開催される。50万個の電球が輝くこのイベントは1985年



国会議事堂全体がクリスマスツリー状態に

から続く首都の一大ページェント。期間中には議事堂の壁面を使ったプロジェクト・マッピングのショーも予定されている。カナダ建国150周年を迎える2017年には、首都オタワでは一年を通じて様々な関連イベントが計画されており、年末のカウントダウンをはじめ、2月3日～20日に行われる恒例の冬祭り「ウィンターロード」もひとときわ盛りあがりそうだ。このウィンターロードの期間を中心に、世界遺産リドー運河が世界最長のアイスリンクに変身するので、ここでのスケート体験もおすすめだ。



7.8kmのスケートリンクとなるリドー運河

自然地帯でも街の中でも、冬のアウトドア体験

冬のオンタリオはアウトドアファンにとっても魅力的な場所だ。オタワやトロントから少し足を延ばせば、アルゴンキン州立公園やマスコーカ地方、ブルーマウンテンなどの自然地帯で、クロスカントリースキー、犬ぞり、スノーモビル、スノーシューなどダイナミックなウィンターアクティビティを体験することができる。またオタワのリドー運河やトロントの市庁舎前広場、ハーバーフロントなどのリンクでローカルと一緒にアイススケートを楽しむことも可能。冬のアクティビティ情報は、ウェブサイト「オンタリオスタイル」(www.ontarisytyle.com/outdoor)でチェックを。



大人気の犬ぞり体験

プリンス・エドワード島 (PEI) 州

Prince Edward Island (PEI)

四季を通じて美味しい！ プリンス・エドワード島 (PEI) フード&グルメ・カレンダー

小説「赤毛のアン」の舞台として有名なプリンス・エドワード島(PEI)。島へ訪れると、小説で描かれた島の美しい自然の情景と、そこで暮らす人たちの等身大で素朴なライフスタイルが今でも脈々と息づいていることに気付かされる。また、そんな島の自然の恵みをいっぱいに浴びた食材と、地元の食材を使った美味しい料理は、世界的なグルメガイドでも「食通におすすめの旅行先」に選ばれるほどレベルが高い。四季を通じて楽しめるPEIのグルメシーン。そのベストなシーズンを時系列で紹介したい。

4月 April

人気投票で選ぶ島でナンバーワンのバーガー PEI Burger Love

毎年4月に1か月間かけて行われるバーガーコンテスト。アイランド・ビーフの消費喚起のために始まったコンテストで、参加レストランごとにオリジナルのバーガーを作り、ウェブサイトで人気投票を行う。今年1番に選ばれたのは、州都シャーロットタウンの「Brick House」のバーガー。1番になると、そのレストランの定番メニューに格上げされる。



ボリュームたっぷりで、地元の新鮮な食材を使っている

<http://www.peiburgerlove.ca/>

5月 May

ロブスター漁がスタート 島の人達にとって特別な初物ロブスター

5月1日に解禁となるプリンス・エドワード島のロブスター（オマール海老）漁。島の北沿海では5～6月の2か月間、南沿海では8月半ばから10月半ばの2か月間、計4か月間がロブスター漁の期間となる。島の人達にとって、初物のロブスターは待ちに待った特別なもの。日本の初鰹や新サンマのような感覚だ。レストランでロブスターづくしのメニューを味わったり、島のマクドナルド限定（6～9月）のご当地バーガー「マックロブスターサンドイッチ」も要チェックだ。



6月 June

「世界一美味しいアイスクリーム」

島の人口よりも牛の数が多くとも言われ、酪農が盛んなプリンス・エドワード島。新鮮な牛乳をベースに造られるアイスクリームの美味しさはまた格別。なかでも「Cow's (カウズ)」は、「世界一美味しいアイスクリーム」に選ばれるほどの本格派。工場見学も行っており、キャラクターの牛をあしらったキュートなTシャツは、さまざまなデザインで、なかには世相を反映したユニークなものもあり、人気を集めている。

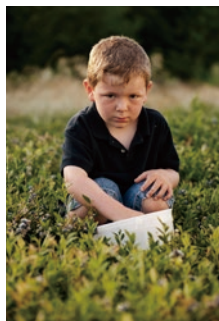


<http://www.cows.ca/>

7月 July

イチゴにワイルドブルーベリー 自分で摘める「U Pick」、スイーツも

露地物で真っ赤に熟すまで畑で育てられるプリンス・エドワード島のイチゴ。7月になると、農家に「U Pick」の看板が掲げられ、イチゴ摘みが楽しめる。ワイルドブルーベリーも有名。普通のブルーベリーよりもアンチエイジング効果が期待できるアントシアニンの成分がたくさん含まれるスーパーフード。8月が旬で、この時期はワイルドブルーベリーの「U Pick」と旬のスイーツが出回る。



ワイルドブルーベリーをピッキング



旬のストロベリーを使ったストロベリーショートケーキは島で大人気。日本のものとは異なり、スコーンを水平に2つに分け、間に煮詰めたストロベリーを挟み、上からホイップクリームをふんだんにかけて新鮮なイチゴをポンと乗せる。シンプルだからこそイチゴの味がしみわたる

8月 August

島はシーフードの宝庫！ 潮干狩りやダイビングツアーに挑戦



オイスターと山盛りのムール貝

プリンス・エドワード島が「食通の目的地」と言われる大きな所以のひとつがシーフードの名産地であるという点。ロブスターだけでなく、ムール貝は北米で最大の産出量を誇り、カキはニューヨークのオイスターバーで最高級品として珍重される。また、ハマグリやホタテなどの他の貝類も豊富。さらにタラや海老、カニも美味しい。夏になると、潮干狩りやハマグリをとるシュノーケリングが観光客を楽しませてくれる。新鮮なシーフードを使ったクラムチャウダーは、各レストランの自慢の味だ。



ハマグリをとるシュノーケリングに挑戦

9月 September

食の祭典 「フォールフレーバー」

毎年9月に1ヶ月間にわたり繰り広げられる食の祭典「フォールフレーバー」。ワイナリーツアーやロブスターの浜焼き（ビーチバーベキュー）、ディナークルーズなど、期間中は食関連のフェスティバルやイベントが目白押しで、特に人気なのが「シェルフィッシュフェスティバル」。シーフードチャウダーコンテストや有名シェフの豪華ディナーなど、グルメファンにはたまらない内容だ。今年は9月2日から10月2日までの予定。

<http://fallflavours.ca/>



シャーロットタウンのメインストリートが期間中は巨大なファーマーズ・マーケットに様変わり



有名シェフがビーチで新鮮なロブスターを焼いてふるまうビーチパーティーも人気

10月 October

紅葉と感謝祭の時期は カボチャの季節

プリンス・エドワード島の紅葉のピークは10月半ば。ちょうどこの時期はカナダの感謝祭の時期にもあたる。町には可愛らしいカボチャのデコレーションが登場し、カボチャを使った美味しいスイーツはこの時期だけのお楽しみ。感謝祭のスペシャルディナーは、七面鳥を焼くのが一般的だが、大きなハムの塊を焼くのも伝統。デザートはもちろんカボチャのスイーツだ。



11月 November

美味しいゴーダチーズが人気

酪農が盛んなプリンス・エドワード島では、もちろん美味しいチーズも味わえる。オランダ移民が多かった島には、オランダ伝統のゴーダチーズの工房もあり、工房を見学したり、自慢のチーズを使った美味しいピザが食べられたり、観光客にも人気スポットとなっている。



<http://glasgowglennfarm.ca/>

Gourmet Topics グルメ・トピックス

セレブシェフの宿がオープン Inn at Bay Fortune

カナダのセレブシェフで島のフード大使でもあるマイケル・スミス氏がオーナーとなり、昨年リニューアルオープン。目玉はディナー。15人のシェフがオープンキッチンで新鮮な島の食材を最高のディナーに仕上げる。



薪ストーブのオープンキッチンで調理器具にもこだわり

<http://innatbayfortune.com/>

島のグルメシーンが分かるポータルサイト PEIフレーバー

島のフードツアーや有名レストラン、オーガニック農場やファーマーズ、シーフードマーケット、すべてが網羅されたポータルサイト。島を訪れたらぜひ島の食材をふんだんに食べてほしいという想いで、食べるだけでなく生産者に会ったり、魚釣りをしたり、伝統菓子を作ったり、体験要素もたくさん掲載。



<http://pei flavours.ca/>

フィッシング愛好家注目の スポーツ・ツナ・フィッシング

プリンス・エドワード島は北大西洋のマグロ漁の拠点のひとつ。ブルーフィッシュと呼ばれる大きな本マグロが取れることで、世界中のフィッシングファンからも注目を集めている。ノースレイクを中心に東部北海岸周辺では、スポーツ・ツナ・フィッシングを提供するボートが続々オープン。人気も急上昇中だ。



プリンス・エドワード島州政府観光局
<http://www.tourismpei.com/jp>



Canada Special 2016

カナダ特集2016